

世界の人口 70 億人突破

今年の10月31日で世界人口は70億人になった、と国連は発表した。2050年に約93億人、2100年には101億人、世界人口は100億人超で落ち着くと予測されている。
では何故人口が急増したのか？ 18世紀から始まった「4つの革命」により、多産多死の長い時代から、多産少死へ転換したと言われている。

4つの人口革命

- ① **産業革命**：便利な機械が次々と発明されて手作業から機械化が始まった。
- ② **農業革命**：農器具や肥料の開発でたくさんの農産物が作れるようになり、食料不足がなくなれば飢えて死ぬ人が少なくなった。
- ③ **輸送革命**：船や機関車が登場して、モノを運ぶ輸送力が出た。
- ④ **医療革命**：流行病の薬もなく、手術の道具もあまりなかった時代は、病気は薬草やお祈りで治そうとした。薬や医療の技術が死亡率を低くしていった。1950年頃は48歳が世界の平均寿命だったが、今は約68歳。

地球人口の定員は100億人超？

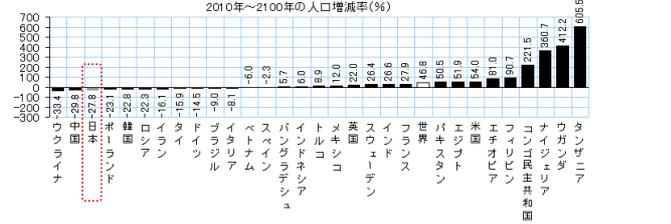
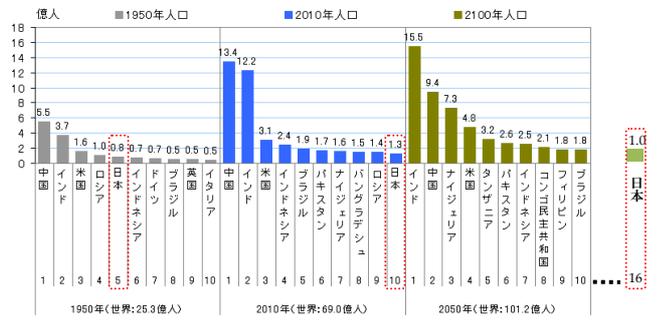
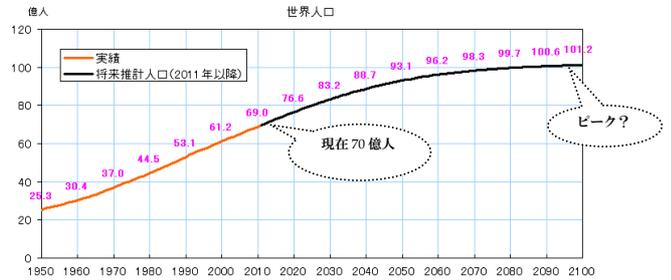
農産物を作れる面積や農業や飲み水に使える水は、それぞれどのくらいあるのか。第五の人口革命（技術革新）により資源・食糧の有効配分と活用がすすんだとしても、様々な「地球の定員」の予測計算は、平均するとざっと100億人程度。すなわち多産少死から少産少死の時代になって、22世紀には人口増加のピークである101億人あたりで止まると想定される。

これからも人口増加が続くアフリカなどでは、環境破壊の問題も懸念される一方、人口が減り始めている日本などでは、高齢化の問題が深刻になる。

日本の超高齢社会

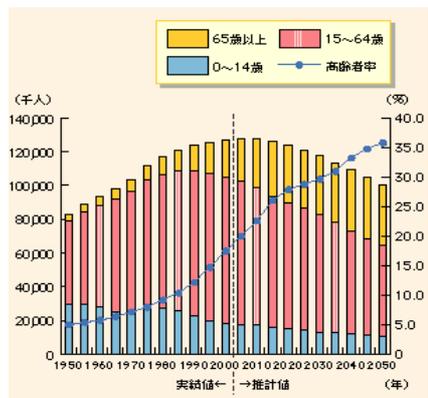
日本の65歳以上の比率は、2010年の国勢調査で23%（アメリカ・約13%、ドイツ・約20%、イギリス・17%、イタリア・20%）、2030年に30%を超える予測される。働く人が減り、今の社会制度がこのままだと年金、医療費、福祉関係の社会保障費が99兆円まで膨らみ、社会保険料収入との税金による差額も広がる。税収も落ち込む中、日本はバブル崩壊からずっと財政赤字に悩んでいる。日本は少子高齢化が急速に進む先頭ランナーで、世界が日本の社会動向に注目している。大切なことは、問題を先送りせず、どうやって持続可能な暮らしを支え合っていくのかを考えること。今まさに、先送りされ続けてきた「社会保障改革問題」の国民的議論がなされるべき時がきた。

世界と主要国の将来人口推計



(注) 中位推計の結果 (資料) 国連 (2011) World Population Prospects: The 2010 Revision

日本の年齢（3区分）別人口の推移



注：将来推計人口は中位推計
資料：総務省統計局『国勢調査報告』、国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』（2002(平成14)年1月推計）より環境省作成